

平成 28 年度

# 地域医療学講座

## 年報

— 第 8 号 —



愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座  
〒791-0295 愛媛県東温市志津川  
(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

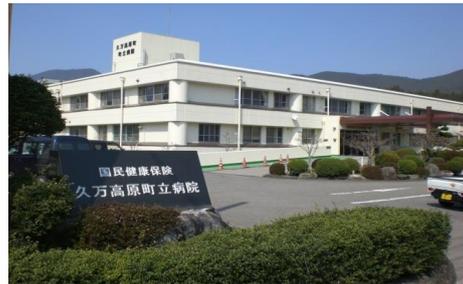


西予市立野村病院

〒797-1212

愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938



久万高原町立病院

〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

## 目 次

- 地域医療学講座の取り組み  
・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一 1
- 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動  
・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 准教授 熊木 天児 2
- 学外講師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 地域医療教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 第6回中四国地域医療フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 第16回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会・  
第16回愛媛プライマリ・ケア研究会・四国地域医学研究会・合同学術集会・・11
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 総合診療科（地域医療学）専門研修・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 初期研修・後期研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
- 総合診療科としての取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・21
- 平成28年度 地域医療学講義・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 平成28年度 地域医療ワークショップ（地域卒学生対象）・・・・・・・・23
- 基礎配属学生の研究成果・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿・・・・・・・・・・・・・・・・25
- 業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
- その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
- マスコミ取材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

## 地域医療学講座の取り組み

地域医療学講座 教授 川本 龍一

地域の医師不足を背景に設立されました当講座も、平成 28 年度で丸 8 年間を終えました。講座開講と同時期に入学した地域枠第 1 期生も卒後 2 年間の初期研修を終え、後期研修に入りました。当年度も関係者各位、サテライトセンター設置自治体・職員、地域住民の皆様のご協力を頂き、愛媛の医療に貢献する医師の育成の為に様々な取り組みを進めることが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。

本講座では久万高原町立病院と西予市立野村病院に設けられた 2 ケ所のサテライトセンターにて実習や研修を行って来ましたが、29 年度からは宇和島市立津島病院でも実習が行えるようになりました。今後、少しずつ受け入れ施設の状況を考慮しながら実習の機会を増やしていきたいと考えています。また、済生会病院の協力により済生丸による離島診療の実習も行っています。離島での検診活動を知る貴重な体験となる実習です。今後、夏休みなど利用してその機会を増やしていきたいと考えています。

研究教育活動としては、基礎配属として地域医療を希望する 2 年生 3 名と 3 年生 5 名が実習と研究活動に励んできました。彼らは地域医療の現場で患者に触れるとともに地域医療ならではの調査研究を行い、日本プライマリ・ケア学会や日本老年医学会で発表しました。

地域医療支援活動では、地域医療学講座のメンバーがサテライトセンターで外来診療や当直などの診療支援を行っています。基幹病院からの研修医が徐々にではありますが増えており、初期研修では愛媛大学病院、愛媛県立中央病院、松山赤十字病院、済生会松山病院、松山市民病院、自治医科大学病院などから毎月 2 名が訪れ研修を受けています。

地域をケアする取り組みでは、地域住民が病気にならないようにする仕組みづくりも重要です。元気な高齢者を増やしていくことにより、将来的な医療費の削減および街全体の活性化に繋がることを期待されます。地域には高齢者向けのスポーツクラブがいくつか結成され、我々は参加者の体力測定や健診を行う取り組みを行っており、参加への動機づけを図るとともに得られたデータは研究に活用させていただいています。また、地域に対する働きかけとしては、虚弱高齢者が集まる生きがいデイサービスの場を利用して、最期をどのように過ごしたいかを各人が真剣に考えるよう促す『看取り教育』にも取り組んでいます。

研究活動としては、地域医療学講座では動脈硬化性疾患の危険因子に関する多くの論文を発表してきました。科研費では、引き続き学生の地域指向性を測る尺度や診療科選択に関する背景の開発も行っています。既に成果は論文化されており、今後も地域でのリサーチを推進し地域医療に貢献できればと思います。

これらの取り組みを通して愛媛の地域医療に微力ながら貢献してまいります。これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 久万高原町サテライトセンターこの1年間の活動

### 地域医療学講座 准教授 熊木 天児

久万高原町サテライトセンターでの活動も8年目が終了しました。例年同様、病院の敷地内で宿泊しながらの実習を行っています。地域医療学講座に赴任してから3年が過ぎ、久万高原での臨床実習以外の課外活動に取り組んでおります。従来との活動とあわせてご報告致します。

#### 1. 臨床実習

##### A. 週間予定

	午前	午後
月曜日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ オリエンテーション</li><li>・ 外来見学 (OSCE)</li><li>・ 院内紹介</li><li>・ 病棟患者紹介 (内科2例、外科1例)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外来実践 (問診、OSCE)</li><li>・ プライマリ・ケア学習道場：症例振り返り</li><li>・ 病棟回診</li></ul>
火曜日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 訪問看護</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生理検査室実習</li><li>・ 放射線部実習</li><li>・ 病棟回診</li></ul>
水曜日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 検査見学・実習 (エコー・内視鏡)</li><li>・ 外来看護実習 (採血練習)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病棟看護実習 (血圧測定)</li><li>・ リハビリ室</li><li>・ 病棟回診</li></ul>
木曜日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 介護実習</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 父二峰診療所1名</li><li>・ 訪問診療2名</li><li>・ 病棟回診</li></ul>
金曜日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外来実践 (問診、OSCE、カルテ記入)</li><li>・ プライマリ・ケア学習道場：症例振り返り</li><li>・ 外来看護実習 (採血実践本番・測定)</li><li>・ 介護保険講習</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生理検査室：採血持参・検査測定</li><li>・ 病棟回診</li><li>・ まとめ：症例提示、課題発表</li></ul>

赴任以来、月曜日・金曜日は熊木が担当し、火曜日～木曜日は院内スタッフに大変お世話になっております。大学病院の臨床実習と趣きが全く異なり、例年通り実習期間の延長を望む学生がほとんどです。臨床実習期間については全国的に見直しされており、地域医療実習も延長されるものと思われます。現在の医学生には、CBT (医学的知識を問う国家試験の予備テスト) および OSCE (身体診察の実技試験) が課せられ、臨床実習が開始される前の進級の条件となっております。私が担当する日は、診察しながらの指導。せっかく一生懸命に取り組んできた CBT と OSCE、何よりも成功体験が重要です。実際、病歴聴取、鑑別診断、検査計画と一連の流れを実習生に実践してもらい、これまでの学習が臨床の現場で活かせられるということを実感してもらえようように指導しております。

B. 実習課題：例年通り、下記課題を与えております。

a) 実習レポート：毎日付けている記録をもとに、実習を通して感じたことをまとめてもらっています。将来の地域医療を担う世代の思いが伝わって来る、読み甲斐のあるレポートが数多く見受けられます。彼らにある実習直後の熱い思いが将来の地域医療をより良いものに変えてくれることを願ってやみません。

b) 病棟症例検討会：内科系 2 例、外科系 1 例を 3 人で担当し、疾患のみならず、周辺的生活環境、家庭環境などにも気を配るようにメッセージを発信しております。すなわち、医学だけに注目するのではなく、医療全体を理解する必要性を説いております。患者紹介や電子カルテの説明ほか、松木先生にはいつも御世話になっております。

c) Power Point 発表会：本年も「田舎では最新の医療に取り残されていく」という先入観を払拭するためにも、臨床推論を含めた feedback 形式の勉強会および座学ではありますが common disease に関するスライド発表を継続しました。具体的には、In the Clinic、総合診療アップデート、Medical Tribune、内科外来マニュアルを教材に自由にテーマを選んでもらい、まとめてもらっています。

2. 課外活動：本年は宇和島市立津島病院、済生丸巡回診療船などでも課外活動が行われ、久万高原での活動は昨年より少なめではありましたが、実習生には好評でありました。

A. プライマリケア外来道場@久万高原町立病院（2016年8月20日、12月26日）

夏休みを利用して医学科 3 年生 1 名および 4 年生 1 名、冬休みを利用して 4 年生 1 名および 5 年生 1 名が診療体験をしました。5 年生は臨床実習中でありさらに経験が積める場として、4 年生は臨床実習を控えた予習として、3 年生は 1 年間かけて学んだ内科学の復習の場として良い機会と思われました。早い時期から多職種連携を目の当たりにし、病歴聴取にも慣れ、抵抗感をなくすことにより、総合診療や primary care にもっともっと関心を持つ学生が増えると思われます。来年以降も続けたいと思います。これからも、後進の指導に熱心な医師が育成されるよう日々精進したいと思います。

今年度も大きな問題がなく活動ができました。久万高原町立病院のスタッフおよび関連施設、行政の関係者の方々にはこの場を借りて感謝申し上げます。引き続き御指導のほどよろしくお願います。

## 学外講師

### 「家庭医によるタバコフリー活動」 (2016年11月10日、東温市)

かとうクリニック院長 加藤 正隆先生

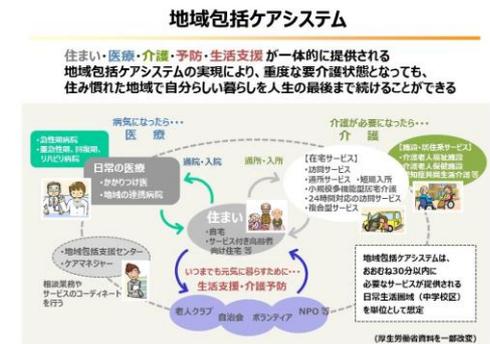
たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講義していただきました。今回は、パソコンとスピーカーの不具合から音声が出ませんでした。いつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿に先生の熱意と熱い息込みが伝わる講義でした。



### 「高齢者医療と福祉—求められる医師像—」 (2016年11月18日、東温市)

綾川町国民保健陶病院院長 大原 昌樹先生

先生が地域の第一線で取り組んでおられる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えながらわかりやすく解説していただきました。今回の講義では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネージャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明していただきました。病院づくりもとても素敵で、障害のある方が運営する売店、患者さんと一緒に行う行事など具体的にお示しいただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。



### 「地域医療における病院運営と高齢者ケア」 (2016年11月25日、東温市)

済生会松山病院院長 宮岡 弘明先生

済生会松山病院での幅広い取り組みについてご紹介いただきました。高齢化が進むなか、多職種を巻き込んだチーム医療について多くの事例を交えたお話でした。離島医療についても定期的に取り組み、離島：釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。救急医療については松山の輪番制の中で8日に1回の救急を担当し、時には何十台もの救急車がくる現状をお話しされました。さら



には地域医療を担う医師養成として、generalist の mind を持った specialist を養成する取り組み、ER 中心の病院（忙しすぎる）とじっくり学ぶ病院（救急対応が今ひとつ）とのメリットを生かしたローテート方式についてご紹介いただきました。現在は後期研修医が残り、屋根瓦方式の研修が可能になっている現状は素晴らしいと思われます。

「地域医療における心のケア」(2016年12月9日、東温市)  
愛媛県立新居浜病院副院長 山岡 傳一朗先生

今回も、中島産のミカンを用いて、代表の学生が問診を行いました。病期の流れの中で過去から未来へ、問診と観察、さらには推察の重要性について、山岡先生ならではのユニークな講義内容でした。また、日本における鍼灸や東洋医学の歴史を交えながら、さらには鍼の使用も実習しながら、鍼の目になったつもりで刺入を行う技を伝授いただきました。学生は初めて触れる鍼に戸惑いながらも興味深く聴講していました。



「 Bangladesh での医療活動」(2017年1月20日、東温市)  
松山ベテル病院内科部長 宮川 眞一先生

先生は、関西の神学部を卒業された後に改めて医学を志し、卒業後 Bangladesh にあるキリスト教系の医療施設で医療活動を7年にわたり行ってこられた方です。発展途上国特有の貧富の差の大きい国において、富裕層には先進国並みの医療が提供され、貧困層にはそれが十分行き届かない中、感染症の撲滅のため環境改善に取り組んでこられた話は、国際貢献・医療活動を志す者にとっては勿論のこと、一般学生にとっても貴重な内容でした。

地域医療学 Bangladesh での医療活動：愛媛大学医学部医学科 2017.1.20  
元 JOCB Bangladesh 派遣リーダー / 松山ベテル病院 医師 宮川眞一  
MOD (Millennium Development Goals) ミレニアム開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標に関連させ、Bangladesh での医療 NGO 活動を知る：NGO と JOCV / JICA とでは、何が違うのか。  
MDGs：2000年9月の国連ミレニアムサミットで、「ミレニアム宣言」が採択され、この宣言をもとにミレニアム開発目標 (MDGs) がつくられた。2015年までに達成すべき8つの目標「21の具体的なターゲット」40の指標  
①極度の貧困と飢餓を撲滅、②質の高い初等教育の達成、③ジェンダー平等の推進と女性の地位向上、④乳幼児死亡率の削減、⑤妊産婦の健康状態の改善、⑥MIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止、⑦環境持続可能性を確保、⑧開発のためのグローバル・パートナーシップの推進  
SDGs：MDGs から続く発展目標などに関する開発分野の目標と、持続可能な世界を目指す環境分野の目標。統合した包括的な内容目標数を17に増やし、169のターゲットを定めた。MDGs で未達成だった目標も含め、「賢ひらき」して取り残さないことを目指している。  
① ①-1) JOCBのミッションと活動紹介  
②-1) 宮川がJOCBリーダーとして、現場で働くきっかけ(動機)について  
・幼少の頃のJOCB ネバルワーカー-山村昇氏との出会い  
・受験浪人-神学部在学-医学部進学  
・神学部在学中、アジア国際短期学校 / Bangladesh 研修生  
② Bangladesh (途上国)の現状について-国際医療協力が重要な理由  
・アパルタヘイトを中心とした経済発展の途上の中、広がる経済格差  
・毎年数万人の自然災害  
・不平等な「命」の奪われ、貧困、深刻な医療格差、政治の腐敗、「命は待ってられない」  
③ ③-1) 災害医療 (国際緊急医療援助)：緊急・短期 ③-2) 国際医療援助 (長期)  
④ ④-1) 国産機関 ④-2) 国際団体 ④-3) 大規模機関 NGO ④-4) 小規模 NGO ④-5) 個人  
・公立病院-医師-医療者の不合理な状況  
1) 医療に足りない医療環境(治療費は無料といえども...) 2) アパルタヘイト  
3) あふれる患者 4) 貧富の差-医療受益格差  
③ チャンドゥラゴーンでの医療協力活動について

## 地域医療教育活動

### 第2回四国ブロックプログラム交流会・後期研修医ポートフォリオ発表会（2016年2月13日、松山市）

四国ブロックにおける後期研修医ポートフォリオ発表会を開催いたしました。各ブロック関係者の皆さんとの交流も兼ね、徳島県と高知県からも後期研修医が参加され活発な議論がなされました。がんの告知に悩んだ症例や在宅での終末期を望みながら叶えられなかった症例など研修医の葛藤が伝わる発表会でした。

愛媛県立中央病院管理棟4階中会議室

◆ 14:00～15:20 家庭医療 ポートフォリオ発表会

四国内の家庭医療後期研修中の専攻医3名発表予定

◆ 15:30～17:50 家庭医療専門医 試験対策講座

愛媛生協病院 家庭医療科 原穂高先生、尾崎達哉先生  
山本美奈子先生

～Part1～ 記述試験

～Part2～ CSA(Clinical Skills Assessment) 家庭医療版 OSCE

◆ 17:50～18:00 講評（愛媛大学医学部地域医療学 川本龍一教授）



### 第3回えひめ多職種連携ワークショップ（2016年3月21日、松山市）

上本明日香さんの進行による多職種連携ワークショップ。今回は終末期をテーマに取り上げ、漫画「ちびまるこちゃん」でおなじみのさくら家を想定して行われました。ひろしが胃がんの末期と宣告されたところからはじまり、そこで繰り広げられるすみれ、ももこ、ちびまるこ、そして前回から脳梗塞をわずらった祖父の友蔵に参加者がなかり、緩和ケアカンファレンスやデスカンファレンスを行いました。

講演では、愛媛生協病院家庭医療科の原 穂高先生がご自身が自宅で看取った事例を紹介され、家族と先生とが共に歩んだ終末期のケアのあり方について心のこもったお話をされました。

その後、株式会社ホームメディケアライフ薬局代表取締役：中矢 孝志先生からは、薬局の立場から愛媛県内の在宅医療を支える薬局の現状と緩和ケアにおける調剤薬局のあり方について詳しく解説がなされました。5時間にわたるワークショップでしたが非常に中身の濃い実りのある会でした。





## 第1回四国地方プライマリ・ケア交流会（2016年10月1日、東温市）

日本PC連合学会学生・研修医部会 四国支部長（愛媛大学5年）田中いつみ

平成28年10月1日 午前中は、地域医療で活躍する四国支部の先生：愛媛大学医学部地域医療学講座：川本龍一先生、香川大学医学部地域包括医療学：窪田良次先生、徳島大学医学部総合診療医学：山口治隆先生、高知大学医学部家庭医療学：西村真紀先生から自分史と題して各先生の現在にいたるまでのお話をいただきました。各先生それぞれ総合診療医（家庭医）の



は専門医でありながら総合診療医になった先生、地域のニーズに応じて総合診療医に辿り着いた先生、学生のころからなりたくて指導医が少ないなか家庭医になり、さらに啓蒙活動に努めている先生など様々でした。ランチョンセミナーでは、各大学からPCと関連ある学生活動に関する報告がありました。午後からは、検診・予防医療（徳



島大学：河南真吾先生）、BPSモデル（愛媛生協病院：水本潤希先生）、行動変容に関するワークショップ（岡山家庭医療センター：山内優輔・和田嵩平先生）が開催されました。また、喫煙指導に関するロールプレイも行われました。



## 第4回えひめ多職種連携ワークショップ（2016年10月30日、松山市）

平成28年10月30日13時より松山大学薬学部・たんぼぼクリニックとの合同により多職種連携ワークショップを開催いたしました。宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授の吉村 学先生より出された終末期の高齢者をテーマに学生や医療現場で活躍する訪問看護師などの参加の下、医師、薬剤師、ケアマネジャー、看護師等に分かれ、各人がそれぞれの職種になってロールプレイを演じる中で各職種への理解を深めました。



## 第16回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部学術大会・第16回愛媛プライマリ・ケア研究会・四国地域医学研究会 合同集会（2016年11月12-13日、松山市）

第16回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会・四国地域医学研究会・第16回愛媛プライマリ・ケア研究会合同学術集会を平成28年11月12日・13日に愛媛県看護協会大研修室で開催させていただきました。

本会は四国地区のプライマリ・ケア及び地域医療に従事する方々が、年に一度成果を持ち寄り議論し、明日への診療へフィードバックする大変実践的な学術集会です。本年度も23題という多くの興味深い演題を応募いただきました。また、特別講演では宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授の吉村 学先生より「地域は大きな学校—ごちゃまぜ、おきざり、むちゃぶりで切り開く地域医療—」をテーマにユーモアあふれる心温まるご講演をいただきました。



また、日本プライマリ・ケア連合学会会長である丸山 泉先生には今後の学会の在り方、総合診療専門医の動向などについて将来を見据えた格調高いお話を賜り



ました。また、一般演題に加えてポートフォリオ大会・臨床推論と盛りだくさんの内容で会も盛況に終わることができました。会終了後には、板東 浩会長の下行われる予定である第8回日本プライマリ・ケア連合



学会総会の実行委員会も行われ、各委員からは活発な意見が出され、来年に向けての準備も着実に進んでおります。

## 第6回中四国地域医療フォーラム

日 時：2016年2月26日（金） 15時～

場 所：米子全日空ホテル 3階 瑞鳳殿（ずいほうでん）〒683-0824 鳥取県米子市久米町53-2

### 【プレ集会】

14:30	受付
15:00	開会あいさつ 谷口晋一（鳥取大学医学部地域医療学講座教授）
15:10 ～18:00	地域医療教育の目標と評価に関して。さらに、地域医療学関連講座の現状、地域卒生のキャリア支援に関して1大学あたり8分の説明の後2分の質疑応答、その後は自由討論（大学名：高知大学、徳島大学、愛媛大学、岡山大学、広島大学、山口大学、島根大学、鳥取大学）

日 時：2016年2月27日（土） 午前9時～午後3時

場 所：米子全日空ホテル 2階 〒683-0824 鳥取県米子市久米町53-2

当番幹事：鳥取大学医学部地域医療学講座

協 力：鳥取大学医学部、鳥取大学医学部附属病院、鳥取県地域医療支援センター、鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課

### 【プログラム】

8:30	受付	
9:00	開会あいさつ 河合康明（鳥取大学医学部長） 清水英治（鳥取県地域医療支援センター長、鳥取大学医学部附属病院院長） 本会の概要説明 谷口晋一（鳥取大学医学部地域医療学講座教授）	
9:15	「英国と日本のヘルスシステムと卒前卒後教育の違い」「英国家庭医の現状」 グレッグ・アービング（英国ケンブリッジ大学アカデミック GP）、田頭弘子（英国オクスフォード大学）	
10:45	休憩	
11:00	ワークショップのねらいに関して（谷口晋一） 各大学から報告（1大学5分） 卒前地域医療教育の特徴と目標設定	
12:00	ワークショップ「2035年の未来をみつめた地域医療人材育成」	学生ワークショップ （2階 琥珀鳥の間）
14:10	各グループから発表 学生発表	
14:50	まとめ 福本宗嗣（鳥取県地域医療支援センター特命教授）	
14:55	閉会あいさつ 谷口 晋一	



**第16回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会**  
**第16回愛媛プライマリ・ケア研究会**  
**四国地域医学研究会 合同学術集会**

【日 時】 2016年 11月 12日 14時～、13日 8時 30分～

【場 所】 愛媛県看護協会

時 間	内 容
14：00～14：05	開会挨拶 川本 龍一（愛媛大学医学部地域医療学講座）
14：10～15：00	一般演題1 座長：杉山 圭三（愛媛県立中央病院総合診療科） 1. 愛媛大学医学部学生の診療科選択の要因分析 松田 拓也（愛媛大学医学部医学科2年） 2. 総合診療専門医志向を持つ医学生の特徴について 山村 圭（徳島大学医学部医学科3年） 3. 海部病院遠隔診療支援システム“k-support”導入による急性期脳 卒中予後調査 坂東 桃子（徳島大学医学部医学科3年） 4. 冷え症と生活習慣の関係について 三橋 七重（徳島大学医学部医学科3年） 5. のーがえいろうか？ 一方言集の有用性の検討— 江田 仁海（高知大学医学部医学科4年）
15：00～15：50	一般演題2 座長：澤田 努（高知医療センター総合診療科） 6. 西予市野村町地域在住後期高齢者における主観的幸福感に関する 調査 日浅 悠（愛媛大学医学部医学科2年） 7. 山間地域における終末期医療に関する意識調査 山手 敦史（愛媛大学医学部医学科2年） 8. FM Ehime（Family Medicine Ehime）の活動 木内 拓海（愛媛大学医学部 FM Ehime） 9. 愛媛県無床診療所における地域医療研修アンケート結果 嶋本 純也（愛南町国保一本松病院附属内海診療所） 10. 家庭医専門医試験を受験して（四国の3名の家庭医療専門研修修了者が 感じた事） 長谷川 陽一（三豊総合病院内科）
時 間	内 容
15：50～16：30	一般演題3 座長：谷 憲治（徳島大学大学院総合診療医学分野） 11. 総合診療科を受診するめまい・ふらつき・失神の検討 —年間初診患者約5000例の解析から— 村上 晃司（愛媛県立中央病院総合診療科）

	<p>12. 保存的治療により軽快した急性腎障害 2 症例の検討 千崎 健佑 (西予市立野村病院内科)</p> <p>13. プライマリ・ケアにおける vonoprazan を使用した <i>Helicobacter pylori</i> 除菌治療のコツ 白川 光雄 (海陽町穴喰診療所)</p> <p>14. 南海トラフ巨大地震・津波に備えて (第 2 報) 本田 壮一 (美波町国民健康保険美波病院内科)</p>
16:30~17:10	<p>一般演題 4 座長:加藤 正隆 (かとうクリニック)</p> <p>15. 津島病院における訪問診療の現状 玉井 正健 (宇和島市立津島病院内科)</p> <p>16. 患者の経済状況を尋ねるのに私たちはそこまで尻込みする必要はないのかもしれない 水本 潤希 (愛媛生協病院初期研修医)</p> <p>17. 糖尿病ケアサポートチームで関わる療養支援の取り組み 松田 知子 (徳島健生病院内科)</p> <p>18. 久万高原町自殺予防対策の 10 年間の取り組み 宇都宮 慎 (うつのみや内科)</p>
17:10~17:30	休 憩
17:30~18:00	<p>理事長講演 座長:阿波谷 敏英 (高知大学医学部家庭医療学講座) 「日本プライマリ・ケア連合学会のこれから」 丸山 泉 (日本プライマリ・ケア連合学会 理事長)</p>
18:00~19:00	<p>特別講演 座長:川本 龍一 (愛媛大学医学部地域医療学講座) 「地域は大きな学校—ごちゃまぜ、おきざり、 むちゃぶりで切り開く地域医療—」 吉村 学 (宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 教授)</p>

#### 学術集会 2 日目プログラム

時 間	内 容
8:30~9:00	<p>四国地域医学研究会総会 司会:新鞍 誠 (三重県立志摩病院総合診療科・内科)</p>
9:00~9:45	<p>四国ポータルフォーリオ発表会 座長:原 穂高 (愛媛生協病院) 後期専門研修医3名</p>
9:45~10:30	<p>臨床推論 座長:二宮 大輔 (愛媛大学医学部地域医療学講座) 学生、研修医参加</p>
10:30~11:20	<p>一般演題 5 座長:窪田 良次 (香川大学医学部地域包括医療学講座)</p> <p>19. 外来に“頻回の下痢、少し血液混じりの便”の患者が来た時 ～腸管出血性大腸菌 O-157 の症例を振り返って～ 佐野 良仁 (佐野内科リハビリテーションクリニック)</p>

	<p>20. 当院で入院加療を要した日本紅斑熱患者 8 例の臨床的特徴 江田 雅志（高知県立あき総合病院内科）</p> <p>21. 当科で経験した成人パルボウイルス B19 感染症 24 例の検討 村上 大晟（愛媛県立中央病院初期研修医）</p> <p>22. 地域の魅力発信と医学教育のコラボレーションが引き起こす地域活性化の可能性についてーしまなみ海道横断 臨床推論道場の活動報告ー 上本 明日香（愛媛県立中央病院初期研修医）</p> <p>23. 国診協「認知症の人等にやさしい地域づくり推進事業」と綾川町の活動 大原 昌樹（綾川町国民健康保険陶病院）</p>
11 : 20～11 : 25	閉会挨拶 高原 完祐（愛媛十全医療学院附属病院）

11 : 45～12 : 15	日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会 司会：大原 昌樹（綾川町国民健康保険陶病院）
12 : 15～12 : 30	休憩
12 : 30～14 : 00	第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会実行委員会 司会：大原 昌樹（綾川町国民健康保険陶病院）

11 : 30～12 : 30	<p>企画名：「キャリア Café・mini」（学会男女共同参画委員会企画） 担当</p> <p>西村 真紀（高知大学医学部家庭医療学講座） 湯浅 志乃（徳島大学大学院総合診療部） 原 穂高（愛媛生協病院） 長谷川 陽一（三豊総合病院） 山内 紘子（高知大学医学部家庭医療学講座）</p> <p>場所：講師控室 内容：キャリア相談コーナー</p>
-----------------	---



## 愛媛県主催医学生サマーセミナー

【日 時】 2016年 8月 20日（土） 12時 30分～

【場 所】 県庁第一別館 11階会議室

時 間	内 容
12:00～12:30	受付
12:30～12:35	開会挨拶 医療対策課長
12:35～13:00	司会 愛媛県立中央病院総合診療部 主任部長 村上 晃司 先生
	研修医報告：地域卒卒業生 自治医大卒業生
13:00～13:20	司会 愛媛大学医学部地域医療支援センター 副センター長 高橋 敏明 先生
	《テーマ》（各市町 5分程度） 「県および市町村の現状・施策について」 ・愛媛県 ・西予市 ・愛南町 ・西条市
13:20～14:00	学生が研修医や諸先輩方と交流できる時間 （休憩も兼ねる）
14:00～14:05	ワークショップの進め方の説明 進行 愛媛大学医学部地域医療学講座 教授 川本 龍一 先生
14:05～16:00	ワークショップ 《テーマ》 「医療から見たまちづくり」  各班の課題 「各参加市町の医療とまち」  <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容を参考にグループ討論</li> <li>・8班（8人程度）に分かれて意見交換</li> <li>・20分ごとにグループ間移動</li> <li>・30分で各担当テーマのまとめ</li> </ul>
16:00～16:45	討論発表
16:45	閉会挨拶 愛媛大学医学部地域医療支援センター センター長 高田 清式 先生



## 総合診療科（地域医療学）

### ①総合診療科（地域医療学）講座の紹介

地域医療学講座は、平成 21 年 1 月 1 日、地域での教育・研究・診療を目的として愛媛県からの寄附講座として設立され、現在、西予市立野村病院および久万高原町立病院に講座の地域サテライトセンターを設け活動しています。地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しており、このような現状のなか地域における住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。本講座では、「地域に生き」、「地域で働く」医師を「地域を舞台に育てる」を合言葉に、地域に根付いた教育と研究、医療支援活動を行い、総合診療専門医の育成を目指しています。

### ②研修プログラムの目的と特徴

1. 主な研修場所は、地域における救急を含む一次、二次医療を担当する一般病院であり、紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診、入院を受け入れており、救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会を保障しています。
2. 臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修です。
3. 指導医も臓器別専門医として指導をするのではなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 Problem-based Learning を行いやすい環境を保障しています。
4. 研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。
5. いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり、地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。
6. 医師カンファレンスだけでなく各種コメディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身に付けるのに適した環境を保障しています。
7. 学習環境の保証、教育法の工夫として、研修医が文献や各種二次資料の検索を行なえるコンピューターを配備し、問題解決のための自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。
8. より効果的な教育方法の開発に取り組み、マニュアル化し、研修に取り入れています。
9. 研修内容は研修医の到達度に応じてステップアップしていくシステムをとっており、患者にとって安全で、かつ研修医も安心して研修が受けられる環境を保障しています。
10. 精神的、身体的に健康で、経済的にも余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇、給料を保障しています。
11. 指導医の各種研修への参加保障など指導医養成 Faculty Development を重視しています。
12. 指導医が研修指導にあたる時間を確保するとともに、屋根瓦方式による指導体制をとることで、研修医が十分な指導を受けられる環境を保障しています。

#### 研修の具体例

年数	1年	2年	3年	4年	5年	6~9年
研修内容	初期臨床研修（2年）		総合診療科・内科中心の研修（3年）			自由研修（1~4年）
研修施設	臨床研修病院		地域中核病院、地方病院 診療所			希望医療機関 地域中核病院、地方病院、診療所
資格			日本プライマリ・ケア連合学会認定医・ 家庭医療専門医 日本内科学会認定総合内科専門医			希望に応じた専門医

※当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「総合診療科専門研修コース」、「家庭医養成愛プログラム」と臨床経験5年以下の「地域医療生涯研修コース」を用意しています。

※研修内容は、愛媛大学医学部総合臨床研修センターの支援のもと、本コース参加者と研修医療機関との話し合いで決定します。また、定期的に本コース参加医療機関指導医と研修参加者の研修会を開催し、研修の振り返りと研修内容の充実を計ります。

### ③経験目標

本コースは、地域医療を担う医師を養成するためのコースです。地域医療を担う医師には、一般的な疾患の診断と治療、慢性疾患の管理、急性疾患への対応のほか、訪問診療などの在宅医療や介護保険への関わり、健康診断、予防接種、健康増進と疾病予防、学校医や産業医活動など多岐にわたる対応が求められます。大学病院ならびに地域医療を学べる関連医療機関（愛媛県内外の施設を1～2年間）をローテートしながら、住民のニーズに応じた健康上の問題を中心とした保健・医療・福祉などのあらゆる地域における要望に対応する技能の修得を目標としています。当プログラムを修了した医師は、地域住民と患者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、幅広い分野の人々と協働できることを目標としています。

### ④指導医（講座構成員）

- ・川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、米国内科学会上級会員（Fellow））
- ・熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会（支部評議員）総合内科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会（支部評議員）専門医・指導医、日本消化器病学会（全国評議員）専門医、日本肝臓学会（支部評議員）専門医、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- ・二宮大輔（助教：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医）

### ⑤研修に関する行事

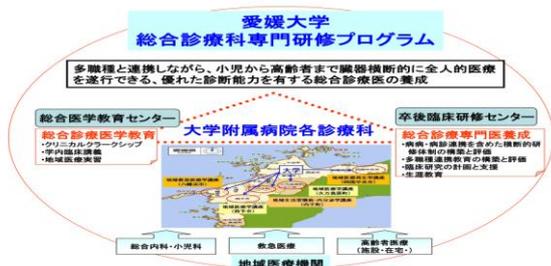
月曜日：抄録会、火曜日：病棟カンファレンス・褥瘡回診、水曜日：レ線カンファレンス・健康教室、木曜日：訪問カンファレンス、金曜日：病棟カンファレンス・総回診

### ⑥研修終了後について

個人の希望に応じて愛媛大学の関連病院で勤務あるいは大学院進学

### ⑦関連病院との連携

臨床コース：希望により、県内の教育病院で研修を積み、日本プライマリ・ケア連合学会や日本内科学会認定専門医取得後、さらに上の専門医取得を計ります。



総合診療科専門研修 I・II の主な連携病院	
< 東予 >	十全総合病院、済生会今治病院
< 中予 >	愛媛県立中央病院、松山赤十字病院、松山市民病院、済生会松山病院、久万高原町立病院
< 南予 >	西予市立西予市民病院、西予市立野村病院、JCHO 宇和島病院、宇和島市立津島病院

### ⑧専門研修の問い合わせ先

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 愛媛大学医学部附属病院総合診療科（地域医療学講座）

## 初期研修・後期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えていきます。

### 初期臨床研修 2年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学病院 5名、松山赤十字病院 4名、松山市民病院 1名、自治医科大学病院 10名

## 初期臨床研修 2年目の地域医療研修の感想

### 藤本研修医 (2016/4/14～5/2)

非常に有意義な研修を行うことができました。患者さんの退院後の生活を含めた治療を行うということや、周辺の医療圏のプライマリ・ケアを支えていくということを学びました。患者さん、スタッフの皆さん穏やかで温かい方ばかりで楽しく過ごせました。

短い期間ではありましたが大変お世話になりました。

### 橋本研修医 (2016/5/9～6/1)

一ヶ月という短い期間でしたが、職員のみなさんによくしていただき、実りある研修を送ることができました。介護を要する方たちの、退院後の施設での様子や自宅での過程を知ることができたことは今後の研修にも生かされると感じます。

救急隊対応や外来、検査、往診など積極的に学ぶことができました。お世話になりました。

### 河野研修医 (2016/5/1～6/29)

二ヶ月間、あっという間に過ぎたように感じます。一次救急、二次救急から、患者さんの退院支援や看取り、最初から最後まで関わった点はとても良い経験になりました。

また、自分で考えた治療方針で治療させてもらえた点も、プレッシャーを感じながらも良かったです。ありがとうございました。

### 倉根研修医 (2016/6/6～29)

まずは慣れることから始まったわけですが、勝手が違うので大変でした。研修中に関わりを持ったすべての方々に感謝しております。新たに気づいたこと、感じたことを持ち帰って、一層邁進していければと考えております。

### 関口研修医（2016/7/4～27）

短い期間でしたが、内容の濃い研修をさせていただきました。疾患や患者層も大学病院とは大きく異なり、退院後の生活や社会背景まで考慮することの重要性は強く感じました。また、診療所・訪問診療・健診などにも関わらせていただき大変勉強になりました。先生方が、長期にわたり、野村の医療を支えそれに対する住民との信頼関係も身にしみました。充実した一ヶ月、ありがとうございました。

### 山西研修医（2016/7/1～29）

一ヶ月間、ありがとうございました。訪問診療や老健施設での診察、健康診断などいろいろな経験をさせていただきました。地域において、家や施設に帰るための準備の重要性も実感しました。今後も、今回の研修での経験を活かしていきたいと思います。

### 三池研修医（2016/8/1～31）

一ヶ月間、お世話になりました。指導医の先生方はじめ、看護師やコメディカルのみなさんほか多くの方々と関わることができ楽しかったです。地域医療を語るのはまだ難しいですが、実感することができました。患者さんからも多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

### 仁志川研修医（2016/8/1～31）

これまでは急性期病院でしか研修したことがなく、急性期を乗り切った患者さんたちのその後についてあまり知りませんでした。こちらで研修をして、その後患者さんたちがどういう形で退院されるかを知って、病気だけでなく、より患者さんたちの性格、家庭についてを知らなければならず、かつ、理解することが重要なのだと学びました。短い期間でしたが大変お世話になりました。

### 平松研修医（2016/9/1～28）

外来でも病棟でも働きやすい環境ができていると思います。ストレスのない充実した研修になりました。患者さんの家庭環境までしっかりアセスメントし、退院後の生活までサポートする姿勢を学ぶことができました。地域医療を学ぶのに最適な場所だと実感しました。野村にきてよかったです。ありがとうございました。

### 平山研修医（2016/9/5～28）

一ヶ月間お世話になりました。診療所など大学病院の研修では経験できないことを学びました。地域の病院に求められていること、地域全体が対象であり、場所により担う役割が違うことを感じました。先生方、スタッフのみなさんありがとうございました。

### **佐藤研修医（2016/10/3～26）**

短い期間でしたがありがとうございました。疾患に対する治療だけでなく、患者さんの心理社会的な側面にも寄り添うことができ有意義な研修でした。これからもがんばります！

### **村上研修医（2016/10/4～28）**

一ヶ月間、ありがとうございました。外来受診から退院まで、一連の流れでみることで非常に勉強になりました。また、訪問診療がとても楽しかったです。先生方、スタッフのみなさんはもちろん、患者さんにも優しく接していただいて充実した研修となりました。お世話になりました。

### **山泉研修医（2016/11/1～24）**

一ヶ月間、ありがとうございました。ひとりひとり患者さんとその背景を知り、状態や希望に沿った退院後のサポートをする機会に接し、より患者さん全体と向き合う大切さを学びました。今回の研修で得たことを、今後も活かして励んでいきたいと思えます。

### **田口研修医（2016/11/1～28）**

先生方、スタッフの皆さんにいろいろ指導していただき大変勉強になりました。健診、予防接種、搬送など地域研修ならではの経験ができました。地域に根差した医療（往診・施設での診療）に実際に触れることができよかったです。患者層が高齢であり、入院管理の難しさも実感しました。一ヶ月間、お世話になりました。

### **小川研修医（2016/11/28～12/28）**

地域に密着した限られた医療で、治療から退院までを考え医療を行う重要性を学びました。超高齢化社会に伴って大学病院とは異なる疾患を学び、また、エコー・内視鏡など大変勉強になりました。チーム一体で仕事をされている姿に感銘を受けました。私も負けずに励んでいきます。お世話になりました。

### **田手研修医（2016/12/1～28）**

一ヶ月間、お世話になりました。野村病院での研修は、大学での研修とは異なり主体性を求められることが多く、また、各種疾患だけを診るのではなく、患者さんの生活背景まで綿密に考えて医療を行っている時点で、深く考えさせられ非常に濃い研修ができたと思えます。先生、スタッフの方々、野村町のみなさん、貴重な経験をありがとうございました。これからも精進していきます。

#### **菊澤研修医（2017/1/4～30）**

様々な内科疾患の治療方法や経過を追うことができ、とても勉強になりました。また、それぞれの患者さんの生活背景や入院中の ADL の変化に合わせて治療後の方針を決めていくことの大切さと大変さを感じました。疑問点について訂正に指導してくださり、自分の不十分なところに再度気づくことができました。一ヶ月間お世話になりました。

#### **齋藤研修医（2017/1/10～2/1）**

短い期間ではありましたが大変お世話になりました。一般内科の研修に加え、往診や診療所、外来など様々なことを経験できました。入院から退院、退院から外来（往診）まで、連続した医療に責任を持って加わることができ非常に勉強になりました。外来診療の機会がもう少しあるといいかなとも思いましたが全般的に良い研修でした。ありがとうございました。

#### **佐藤研修医（2017/2/1～27）**

短い期間でしたが、幅広い内科的疾患の治療 経過を追うことができ、とても勉強になりました。疾患の治療に関してはもちろん、患者さんの社会的背景や ADL にあわせて治療後の方針を決定することの重要性や、ケアマネージャーさんなどコメディカルの方たちと協力して退院支援することを学ぶことができました。とても学びやすい環境だったと思います。ありがとうございました。

#### **平田研修医（2017/2/6～3/1）**

野村町の寒い冬と温かい人柄に触れることができ、充実した研修を送れました。各科、各職種の垣根が低く、お互い協力しあっている姿を感じました。自分の志望科（整形外科）も考慮していただき、外来・病棟を経験できました。お世話になりました。

## 総合診療科としての取り組み

### 地域医療学講座 教授 川本 龍一

愛媛大学地域医療学講座は、愛媛県へき地の深刻な医師不足対策として、地域で診療活動できる医師の育成を目的に設立されました。当講座のマニフェストは地域における保健・医療・福祉との連携を図りながら、1) 将来の地域医療を担う医師を養成するための地域での学生や研修医の教育、2) 地域医療機関における診療支援、3) 地域に根付いた研究活動を行うことです。

地域医療は疾病の治療に留まらず、地域の行政や住民組織と協力して住民に働きかけ疾病の予防や健康の維持・増進のための活動、リハビリテーション・在宅療養のサポート、地域で暮らす高齢者・障害者・妊婦等の保健指導や相談、子育ての支援など、多岐にわたります。そのうち診療活動では、人を全人的に捉え、特定の臓器・疾患に限定せず多角的に診療を行い、外来初診の「症状」のみの患者に迅速かつ適切に「診断」をつけることです。すなわち地域医療では総合診療医としての能力が求められます。

2018年度の新専門医制度スタートとともに、「総合診療医」の専門医教育が始まったのを受け、愛媛大学では、地域医療学講座が総合診療医教育を担い、愛媛大学附属病院での外来診療を2016年3月より開始いたしました。

総合診療科では、教授・准教授・助教2名の4名体制と安川正貴先生、高田清式先生の協力により外来診療活動（5日/週）を実施してきました。対象は地域の医療機関から紹介を受けた受診科未特定患者で、外来で診察を行い必要に応じて既存の診療科への振り分け、特に入院の必要な患者については関わりのある診療科への紹介を行っています。大学病院という総合病院のなかでの病院総合診療医としての立ち位置の難しさも感じる中、徐々に外来の患者も増えつつあり、そのニーズに手ごたえを感じているところです。

昨年末から計画推進している大学基幹型総合診療専門医のプログラムは、専門医制度の延期により未だ実施はされていませんが、既存の家庭医養成愛プログラム Ver. 2は、附属病院を基幹病院として地域サテライトセンターなど県内の多施設との密接な連携のもとに総合診療専門医養成を始めています。既に1名が県内の公立病院で研修を受けており、次年度研修希望者も現れています。

今後とも、地域医療機関との連携を計り、総合診療の教育に取り組み、地域で医療を行う人材育成・確保と負担軽減を目指し、地域の活性化につながる活動をしていきたいと考えています。

月	火	水	木	金	備考
高田 清式 安川 正貴	熊木 天児	千崎 健佑	川本 龍一	二宮 大輔	総合診療科

## 平成 28 年度地域医療学講義

前期課程 場所：臨床第 2 講義室 6 コマ 6 時限：15:20－16:20

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
6 月 16 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「家庭医としての役割」	地域医療学	川 本
6 月 23 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「ライフサイクルと健康」	地域医療学	二 宮
6 月 30 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
7 月 7 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	熊 木
7 月 14 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「生活習慣病と行動変容」	地域医療学	川 本
7 月 21 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「地域医療における面接技法」	地域医療学	二 宮

後期課程 場所：臨床第 2 講義室 22 コマ 6 時限：15:20－16:20

	時 限	テーマ	所 属	担当医師
10 月 13 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM 1」	地域医療学	川 本
10 月 20 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「EBM と NBM2」	地域医療学	川 本
10 月 27 日木曜日	6 時限	地域医療の理論 「臨床判断の基礎」	地域医療学	熊 木
11 月 4 日金曜日	6 時限	地域医療の理論 「地域における医療資源の活用」	地域医療学	二 宮
11 月 10 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「家庭医による禁煙活動」	非常勤講師	加藤 (川本)
11 月 17 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「多職種との連携」	地域医療学	川 本
11 月 18 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「高齢者医療と福祉」	非常勤講師	大原 (二宮)
11 月 24 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	熊 木
11 月 25 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「病院運営と患者ケア」	学部内非常勤講師	宮岡 (二宮)
12 月 1 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「在宅医療」	地域医療学	川 本
12 月 2 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「在宅終末期医療」	地域医療学	川 本
12 月 8 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「身体診察の基本」	地域医療学	熊 木
12 月 9 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「心のケア」	非常勤講師	山岡 (二宮)
12 月 15 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「世界と愛媛の地域医療」	地域医療学	川 本
12 月 16 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 1」	地域医療学	二 宮
12 月 22 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 2」	地域医療学	熊 木
1 月 12 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 3」	地域医療学	川 本
1 月 19 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「地域医療における臨床研究」	地域医療学	川 本
1 月 20 日金曜日	6 時限	地域医療の実践 「バン格拉デシュでの医療活動」	非常勤講師	宮川 (二宮)
1 月 26 日木曜日	6 時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 4」	地域医療学	熊 木
1 月 27 日金曜日	6 時限	テスト	地域医療学	川 本

## 平成 28 年度 地域医療ワークショップ（地域枠学生対象）

日 時	曜	対 象	内 容
4 月 19 日	火	地域枠全学年	地域枠在校生と新 1 年生との顔合わせ
4 月 21 日	木	第 58 回：地域枠 2 年生	医局について
5 月 12 日	木	第 59 回：地域枠 4 年生	医局について
5 月 20 日	金	第 60 回：地域枠 1 年生	超高齢化社会の処方箋を考える
6 月 2 日	木	第 61 回：地域枠 3 年生	医局について
6 月 16 日	木	第 62 回：地域枠 4 年生	地域における総合診療医の役割
7 月 21 日	木	第 63 回：地域枠 3 年生	
10 月 18 日	火	第 64 回：地域枠 1 年生	介護体験実習報告会
10 月 20 日	木	第 65 回：地域枠 4 年生	胸部 X 線写真を読む
11 月 17 日	木	第 66 回：地域枠 2 年生	
12 月 15 日	木	第 67 回：地域枠 3 年生	地域医療における Polypharmacy への対応
29.1 月 19 日	木	第 68 回：地域枠 2 年生	



## 基礎配属学生の研究成果

### 【発表】

#### 第 27 回日本老年医学会四国地方会（2016 年 2 月 21 日、松山市）

高齢者における疾患に対する重篤感の認識とライフスタイル実現が主観的健康感や幸福感に及ぼす影響について

柳原千秋、二宮大輔、熊木天児、阿部雅則、楠木 智、川本龍一

#### 第 16 回日本プライマリ・ケア学会四国支部総会（2016 年 11 月 12-13 日、松山市）

愛媛大学医学部学生の診療科選択の要因分析

松田拓也、川本龍一、二宮大輔、熊木天児

西予市野村町地域在住後期高齢者における主観的幸福感に関する調査

日浅 悠、川本龍一、二宮大輔、熊木天児

山間地域における終末期医療に関する意識調査

山手敦史、川本龍一、二宮大輔、熊木天児



## 第5学年臨床実習 地域医療学 班別名簿

	西予市立野村病院			久万高原町立病院		
1班	城本 真佑	村上 慶匡	渡部 遥	越智 拓哉	高嶋 遼太	中川 博道
2班	高橋 良輔	西村 晃彦	船木 慶佑	木内 理奈	丹下 正章	外山 和季
3班	杉原 直哉	橋村 紫織	村田 夕紀	加藤 潤一	五藤 凌志	富永 雄介
4班	松岡 篤志	三田村祐里	山本 瑛哲	木内 拓海	下山 佳織	藤山 健太
5班	阿部 央	大原 雄大	中本 健太	小川 史朗	水木 真純	森 礼子
6班	井村 真	島田 侑祐	村上 主樹	加藤 雅也	木村 優希	竹増 真紀
7班	秋田 拓磨	島本 豊伎	中藤 光里	審良 太郎	菊池 泰輔	増永 和恵
8班	関谷 大	野村 倫子	八島 千恵	丹 啓紀	横山 周平	吉田 暉
9班	上田 創	佐伯 綾香	竹本 颯太	大野 広貴	木村 優花	廣畑 俊哉
10班	石橋 伸輔	高木翔一朗	村上 駿平	伊藤 愛	菊池 翔太	清水理紗子
11班	明比 麻由	濱松 勇輝	藤岡 雄介	石村 大樹	河村 勇志	山岡 奈央
12班	上野真梨子	佐伯 彬	的場 將城	嶋田祐一郎	武智 佳菜	難波 和也
13班	大竹 晶彦	草川あかり	久野 優人	足立 良太	河合亜里紗	徳田 剛士
14班	川野 貴大	津田 真司	森 大晃	植田 すず	五葉 海	平田香穂里
15班	塩入 幹汰	長尾 優	西森 早苗	黒河 司	玉井 翔	松原 一樹
16班	柏木 孝介	田中いつみ	松本 雅史	小島 奈々	近藤亜佑美	並木 完慶
17班	大西 一穂	堀内 美香	横畑 宏樹	板本 進吾	三瀬 綾乃	宮城 真貴
18班	加州 範明	定成 裕子	服部 尚樹	勝谷 礼子	小林 祐介	田中 涼果
19班	河原田さくら	藤石 萌	曹 芳 (実地修練生)	久門 志敬	仙田 貴大	曾我部裕文



## 業 績

### 【原著】

Kawamoto R, Ninomiya D, Kumagi T.

Handgrip Strength Is Positively Associated with Mildly Elevated Serum Bilirubin Levels among Community-Dwelling Adults.

Tohoku J Exp Med. 2016; 240: 221-226. [1.287]

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T, Abe M.

Gender difference in preference of specialty as a career choice among Japanese medical students.

BMC Med Educ. 2016; 16: 288. [1.312]

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T, Abe M.

Factors associated with the choice of general medicine as a career among Japanese medical students.

Med Educ Online. 2016; 21: 29448. [0.833]

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T, Abe M.

Serum Uric Acid Is Positively Associated with Handgrip Strength among Japanese Community-Dwelling Elderly Women.

PLoS One. 2016; 11: e0151044. [4.411]

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T, Abe M.

Handgrip strength is associated with metabolic syndrome among middle-aged and elderly community-dwelling persons.

Clin Exp Hypertens. 2016; 38: 245-251. [1.307]

Kawamoto R, Katoh T, Ninomiya D, Kumagi T, Abe M, Kohara K.

Synergistic association of changes in serum uric acid and triglycerides with changes in insulin resistance after walking exercise in community-dwelling older women.

Endocr Res. 2016; 41: 116-123. [1.476]

Kawamoto R, Ninomiya D, Hasegawa Y, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T, Abe M.

Mildly elevated serum total bilirubin levels are negatively associated with carotid atherosclerosis among elderly persons with type 2 diabetes.

Clin Exp Hypertens. 2016; 38: 107-112. [1.307]

Kawamoto R, Ninomiya D, Kasai Y, Kusunoki T, Ohtsuka N, Kumagi T.

Oxidative stress is associated with increased arterial stiffness in middle-aged and elderly community-dwelling persons.

J Clin Gerontol Geriatr. 2016; 7: 136-140. [N/A]

Ohno Y, Kumagi T, Yokota T, Azemoto N, Tanaka Y, Tange K, Inada N, Miyata H, Imamura Y, Koizumi M, Kuroda T, Hiasa Y; EPOCH Study Group.

Early pancreatic volume reduction on CT predicts relapse in patients with type 1 autoimmune pancreatitis treated with steroids.

Orphanet J Rare Dis. 2016; 11: 103. [3.507]

Koizumi M, Kumagi T, Kuroda T, Azemoto N, Yamanishi H, Ohno Y, Yokota T, Ochi H, Tange K, Ikeda Y, Hiasa Y.

Difficulty in management of intraductal papillary mucinous neoplasm-associated pancreatobiliary fistulas and the role of "pig-nose" appearance and intraductal ultrasonography in diagnosis.

Endosc Int Open. 2016; 4: E446-50. [N/A]

Miyake T, Kumagi T, Hirooka M, Furukawa S, Yoshida O, Koizumi M, Yamamoto S, Watanabe T, Yamamoto Y, Tokumoto Y, Takeshita E, Abe M, Kitai K, Matsuura B, Hiasa Y.

Low alcohol consumption increases the risk of impaired glucose tolerance in patients with non-alcoholic fatty liver disease.

J Gastroenterol. 2016; 51(11):1090-1100. [4.658]

Trivedi PJ, Lammers WJ, van Buuren HR, Parés A, Floreani A, Janssen HL, Invernizzi P, Battezzati PM, Ponsioen CY, Corpechot C, Poupon R, Mayo MJ, Burroughs AK, Nevens F, Mason AL, Kowdley KV, Lleo A, Caballeria L, Lindor KD, Hansen BE, Hirschfield GM; Global PBC Study Group. Collaborators: Bruns T, Li KK, Kumagi T, Cheung AC, Cazzagon N, Bianchi I, Franceshet I, Boonstra K, Imam M, Pieri G.

Stratification of hepatocellular carcinoma risk in primary biliary cirrhosis: a multicentre international study.

Gut. 2016; 65: 321-329. [16.658]

## 【総説】

川本 龍一

地域医療におけるポリファーマシー

臨床評価 2016; 44: 243-247.

川本 龍一

メタボリックシンドローム

高尿酸血症と痛風 2016; 24: 147-152.

川本 龍一

大学地域医療講座が取り組むべき地医療支援

月間地域医学 2016; 30: 551-556.

## V 国際学会発表

50th Annual Pancreas Club Meeting. (2016.5.20-21 San Diego, USA)

Clinical significance of B cell-activating factor in Autoimmune Pancreatitis.

Kumagi T, Yamanishi H, Yokota T, Azemoto N, Koizumi M, Kuroda T, Ohno Y, Onji M, Hiasa Y

52th Digestive Disease Week2016 (2016.5.21-24 San Diego, USA)

Assessment of End-Tidal Carbon Dioxide and Partial Pressure of Arterial Carbon Dioxide During an Endoscopic Procedure Using Carbon Dioxide.

Azemoto N, Ninomiya T, Kumagi T, Michitaka K.

76th ADA meeting (2016.6.10-14 New Orleans)

Low alcohol consumption increases the risk of impaired glucose tolerance in patients with nonalcoholic fatty liver disease: A community-based, large, cross-sectional study.

Miyake T, Yoshida S, Yamamoto S, Kanzaki S, Senba H, Furukawa S, Yoshida O, Hirooka M, Kumagi T, Abe M, Matsuura B, Hiasa Y.

Low urine pH is associated with glucose intolerance in men: A community-based cross-sectional study.

Yoshida S, Miyake T, Yamamoto S, Kanzaki S, Senba H, Furukawa S, Niiya T, Yoshida O, Hirooka M, Kumagi T, Abe M, Matsuura B, Hiasa Y.

IAP & JPS & AOPA 2016 (2016.8.4-7 仙台)

Clinical characteristics of IgG4-negative autoimmune pancreatitis.

Kumagi T, Ohno Y, Koizumi M, Kuroda T, Azemoto N, Yamanishi H, Yokota T, Hiasa Y.

The 12th JSH single Topic Conference (2016.9.22-23 金沢)

Down-regulated acidic leucine-rich nuclear phosphoprotein 32 family member B (ANP32B) has a role in suppression of apoptosis, and is associated with poor prognosis in patients with hepatocellular Carcinoma.

Ohno Y, Koizumi M, Nakayama H, Watanabe T, Hirooka M, Koizumi Y, Tokumoto Y, Kuroda T, Fukuda S, Higashiyama S, Kumagi T, Hiasa Y.

AASLD The Liver Meeting 2016 (2016.11.11-15 Boston)

Accumulation of monocytic myeloid-derived suppressor cells in the liver of a murine model of non-alcoholic fatty liver disease.

Abe M, Lao Y, Nakamura Y, Miyake T, Imai Y, Qatanabe T, Koizumi Y, Yoshida O, Tokumoto Y, Hirooka M, Kumagi T, Hiasa Y.

Down-regulated acidic leucine-rich nuclear phosphoprotein 32 family member B (ANP32B) has a role in suppression of apoptosis, and is associated with poor prognosis in patients with hepatocellular carcinoma

Ohno Y, Koizumi M, Nakayama H, Watanabe T, Hirooka M, Koizumi Y, Tokumoto Y, Kuroda T, Fukuda S, Higashiyama S, Kumagi T, Hiasa Y.

Patients with HBV and HCV chronic liver disease under surveillance for HCC are diagnosed with pancreatic cancer at early stages.

Kumagi T, Terao T, Yokota T, Azemoto N, Uesugi K, Kisaka Y, Tanaka Y, Shibata N, Kuroda T, Koizumi M, Imamura Y, Ohno Y, Yukimoto A, Tange K, Nishiyama M, Miyata H, Ishii H, Hiasa Y; on behalf of the Ehime Pancreato-Cholangiology (EPOCH) Study Group.

Upregulated palmitic acid absorption with altered intestinal transporters in non-alcoholic steatohepatitis (NASH)

Utsunomiya H, Yamamoto Y, Takeshita E, Tokumoto Y, Tada F, Miyake T, Hirooka M, Abe M, Kumagi T, Matsuura B, Ikeda Y, Hiasa Y.

Biochemical patterns of alkaline phosphatase and bilirubin levels in relation to clinical outcomes in UDCA- treated PBC patients - an international study

Willem J. Lammers, Henk R. van Buuren, Cyriel Y. Ponsioen, Harry L. Janssen, Annarosa Floreani, Gideon M. Hirschfield, Christophe Corpechot, Marlyn J. Mayo, Pietro Invernizzi, Pier Maria Battezzati, Albert Pares, Frederik Nevens, Douglas Thorburn, Andrew Mason, Kris V.

Kowdley, Angela C. Cheung, Teru Kumagi, Palak J. Trivedi, Raoul Poupon, Ana Lleo, Llorenç Caballeria, Keith D. Lindor, Maren H. Harms, Bettina E. Hansen.

## 【学会発表】

### 第 27 回日本老年医学会四国地方会（2016 年 2 月 21 日、松山市）

地域在住者において握力はメタボリックシンドロームと関係している

川本龍一、二宮大輔、楠木 智、熊木天児、阿部雅則

高齢者における疾患に対する重篤感の認識とライフスタイル実現が主観的健康感や幸福感に及ぼす影響について

柳原千秋、二宮大輔、熊木天児、阿部雅則、楠木 智、川本龍一

### 第 113 回日本内科学会総会（2016 年 4 月 15-17 日、東京都）

運動療法に伴う酸化 LDL コレステロールの低下は握力の改善と関係している

川本龍一、二宮大輔、長谷川陽一、楠木 智、大塚伸之、笠井誉久、阿部雅則

しまなみ海道開通は肝細胞癌診療を変えたか？

UCDA 治療経過中に妊娠した原発性硬化性胆管炎の 1 例

熊木天児、上原貴秀、大本昌樹、平岡 淳、三宅映己、丹下和洋、年森明子、堀池典生、恩地森一、日浅陽一

### 第 102 回日本消化器病学会総会（2016 年 4 月 21-23 日、東京都）

当院における血清 IgG4 陰性自己免疫性膵炎の臨床的検討

大野芳敬、熊木天児、小泉光仁、黒田太良、日浅陽一

### 第 59 回日本糖尿病学会総会（2016 年 5 月 19 日、京都府）

糖尿病患者における糖尿病患者における血清総ビリルビン値の軽度上昇は腎機能低下を抑制する

川本龍一、加藤丈陽、二宮大輔、熊木天児

### 第 1 回日本臨床薬理学会中国・四国地方会シンポジウム（2016 年 6 月 4 日、岡山市）

地域医療における処方と服薬—総合診療医と多職種連携—

川本龍一

### 第 7 回日本プライマリ・ケア連合学会（2016 年 6 月 11-12 日、東京都）

医学生における将来の専攻科として総合診療科選択に関する調査

川本龍一、二宮大輔、笠井誉久、千崎健佑、楠木 智、大塚伸之、熊木天児

シンポジウム 支部活動の活性化と地域・社会への貢献  
地域における地域住民を巻き込んだ学生・研修医教育を通して  
川本龍一、二宮大輔、熊木天児

#### 第 116 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会 (2016 年 6 月 18-19 日、徳島)

生体肝移植後の胆管狭窄に対する内視鏡治療の有用性

小泉光仁、黒田太良、大野芳敬、徳本良雄、熊木天児、日浅陽一

易出血性患者にスクラルファート注腸が有用であった放射線性腸炎の一例

首藤聖弥、山本安則、宇都宮大貴、八木 専、有光英治、竹下英次、  
池田宜央、熊木天児、阿部雅則、松浦文三、日浅陽一

#### 第 53 回消化器病免疫学会総会 (2016 年 7 月 14-15 日、大阪)

NASH における小腸粘膜からの食事由来パルチミン酸の吸収動態変化と病態への  
影響

宇都宮大貴、山本安則、竹下英次、徳本良雄、多田藤政、三宅映己、  
廣岡昌史、阿部雅則、熊木天児、松浦文三、池田宜央、日浅陽一

#### 第 3 回肝臓と糖尿病・代謝研究会 (2016 年 7 月 16 日、金沢)

NAFLD マウスモデルにおける肝骨髄由来制御細胞の機能解析

阿部雅則、桃立穎、中村由子、三宅映己、吉田 理、今井祐輔、渡辺崇夫、  
小泉洋平、熊木天児、徳本良雄、廣岡昌史、日浅陽一

#### 第 16 回日本内分泌学会四国支部学術集会 (2016 年 9 月 3 日、東温市)

地域在住者における握力はメタボリックシンドロームと関係している

川本龍一、二宮大輔、笠井誉久、千崎健佑、楠木 智、大塚伸之、熊木天児

#### 第 26 回日本超音波医学会四国地方会学術集会 (2016 年 10 月 8 日、東温市)

悪性胆管狭窄に対して超音波内視鏡下順高行性ステント留置術が有用であった 1 例

垣生恭佑、黒田太良、今村良樹、小泉光仁、大野芳敬、廣岡昌史、熊木天児、  
日浅陽一

**JDDW2016 (2016年11月3-6日、神戸市)**

当科における硬化性胆管炎の診療変遷

熊木天児、大野芳敬、日浅陽一

**第16回日本プライマリ・ケア学会四国支部総会 (2016年11月12-13日、松山市)**

愛媛大学医学部学生の診療科選択の要因分析

松田拓也、川本龍一、二宮大輔、熊木天児

西予市野村町地域在住後期高齢者における主観的幸福感に関する調査

日浅 悠、川本龍一、二宮大輔、熊木天児

山間地域における終末期医療に関する意識調査

山手敦史、川本龍一、二宮大輔、熊木天児

保存的治療により軽快した急性腎障害2症例の検討

千崎健佑、笠井誉久、二宮大輔、楠木智、若松貴哉、大塚伸之、川本龍一

**第37回日本臨床薬理学会学術総会シンポジウム (2016年12月3日、米子市)**

シンポジウム プライマリ・ケアにおけるポリファーマシーへの取り組み

川本龍一

地域医療における Polypharmacy への対応ープライマリ・ケア医の立場からー

川本龍一

**第106回日本消化器病学会四国支部例会**

**第117回日本消化器内視鏡学会四国支部例会 (2016年12月10日、松山市)**

骨盤内腫瘤に対し安全に経下部消化管 超音波内視鏡下穿刺吸引術 (EUS-FNA) をおこなった1例

今村良樹、黒田太良、小泉光仁、大野芳敬、山本祐司、増本純也、竹下英次、池田宜央、熊木天児、日浅陽一

**第2回GPLUS (2016年12月17日、東京都)**

肝細胞癌における ANP32B の発現の低下はアポトーシスを抑制し、予後不良と関連する

大野芳敬、小泉光仁、渡辺崇夫、徳本良雄、黒田太良、熊木天児、日浅陽一

## 【講演会・研究会】

広島大学医学部講義（2016年1月25日、広島市）

地域医療における総合診療活動

川本龍一

第6回中四国地域医療フォーラムプレ会議（2016年2月26日、米子市）

愛媛大学医学部地域医療学講座の現状と課題

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

第12回高知県消化器疾患懇話会（2016年2月12日、高知）

硬化性胆管炎 ～診断と最近の話題～

熊木天児

岡山大学地域枠ワークショップ（2016年2月13日、岡山）

少し背伸びをしよう ～Research mind について考える～

熊木天児

平成27年度地域医療医振興財団研究成果審査委員会（2016年3月8日、下野市）

山間地域における生活習慣病に関する研究

川本龍一、大塚伸之

サノフィ株式会社社内講習会（2016年4月22日、松山市）

地域医療における生活習慣病対策ーサルコペニア予防ー

川本龍一

第2回膵癌フォーラム（2016年5月7日、高知）

当院における膵癌化学療法の実際

黒田太良、小林光仁、大野芳敬、熊木天児

宇和島薬剤師会学術講演会（2016年6月28日、宇和島市）

尿酸とメタボリックシンドローム

川本龍一

平成28年度西予市立野村病院看護研究委員会（2016年6月29日、西予市）

看護におけるEBMとNBM

川本龍一

輝けシニア！ 実りの祭典 in 三瓶 (2016年7月9日、西予市)

生きて逝く

川本龍一

高齢者生きがいデイサービス (2016年7月12日、西予市)

生きて逝く

川本龍一

西予市いきいき健康大学 (2016年7月12日、西予市)

サルコペニア予防と運動

川本龍一

愛南町の医療にふれる会 (2016年8月2日、愛南町)

西予市立野村病院での地域医療教育の実際

川本龍一

第8回愛媛地域医療医会 (2016年8月20日、松山市)

地域医療における EBM と NBM—糖尿病治療薬を中心に—

川本龍一

愛媛大学 COC 地域志向型教育研究経費成果発表会 (2016年8月30日、松山市)

愛媛の魅力盛り込んだ地域志向型医学教育の実践

川本龍一

南予消化器・内分泌・糖尿病疾患懇話会 (2016年9月1日、宇和島市)

高齢者2型糖尿病患者における血清総ビリルビン値と頸動脈硬化症および腎機能低下との関係

川本龍一、二宮大輔、笠井誉久、千崎健佑、楠木 智、大塚伸之、熊木天児

香川県老人保健施設協議会研修会 (2016年9月9日、高松市)

地域における生活習慣病—フレイル予防—

川本龍一

第49回愛媛大学ヘルスアカデミー/日本内分泌学会四国支部市民公開講座

(2016年9月11日、松山市)



生活習慣病と膵臓の病気

熊木天児

**第1回四国地方プライマリ・ケア交流会（2016年10月1日、東温市）**

地域医療への思い

川本龍一

**第73回日本消化器病学会四国支部市民公開講座（2016年10月1日、新居浜市）**

膵臓の病気について知ろう

熊木天児

**野村いきいき健康体操（2016年10月15日、西予市）**

フレイル予防

川本龍一

**第6回地域医療再生セミナー（2016年10月26日、東温市）**

地域医療学講座の活動報告

川本龍一

**愛媛県国保診療施設連絡協議会（2016年10月29日、西予市）**

超高齢社会における地域への取り組み

川本龍一

**城川地区糖尿病予防教室（2016年11月15日、西予市）**

川津南から発信！糖尿病予防で元快衆楽の輪♪

川本龍一

**第67回肝胆膵研究会（2016年12月3日、松山市）**

肝細胞癌における ANP32B の発現とアポトーシス、予後との関連について

大野芳敬、小泉光仁、中山寛尚、渡辺崇夫、廣岡昌史、徳本良雄、黒田太良、  
阿部雅則、今村良樹、福田信治、東山繁樹、熊木天児、日浅陽一

**日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社社内講習会（2016年12月8日、松山市）**

地域におけるフレイル・サルコペニアへの対応

川本龍一

**高齢者生きがいデイサービス（2016年12月13日、西予市）**

ノロウイルスとインフルエンザ予防

川本龍一

**【座長】**

川本龍一

**糖尿病セミナー（2016年3月4日、宇和島市）**

「食習慣・睡眠習慣から考える糖尿病治療」

愛媛大学医学部疫学・予防医学講座：古川 慎哉先生

**第1回日本臨床薬理学会中国・四国地方会（2016年6月4日、岡山市）**

地域医療における処方と服薬 シンポジウム

「病院総合医の立場から」

千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センター

東千葉メディカルセンター内科（総合診療科）：金井 貴夫先生

「総合診療活動と多職種連携」

愛媛大学医学部地域医療学講座：川本 龍一先生

「シームレスな連携」

岡山赤十字病院薬剤部：森 英樹先生

**平成28年度愛媛県主催 医学生サマーセミナー（2016年8月20日、東温市）**

「医療から見たまちづくりー各参加市町の医療とまちー」

自治医科大学と愛媛大学地域卒学生

**南予消化器・内分泌・糖尿病疾患懇話会（2016年9月1日、宇和島市）**

「夜間を中心に考えた糖尿病治療」

愛媛大学医学部疫学・予防医学講座：古川 慎哉先生

**南予糖尿病セミナー（2016年10月12日、宇和島市）**

「糖尿病治療薬 使い分けのコツ」

愛媛大学大学院医学系研究科糖尿病内科：川村 良一先生

**第12回愛媛軽症糖尿病懇話会（2016年10月26日、松山市）**

「多摩地区における糖尿病医療連携およびチーム医療の構築」

東京都多摩総合医療センター：辻野 元祥先生

## 第16回日本プライマリ・ケア学会四国支部総会（2016年11月12日、松山市）

「地域は大きな学校—ごちゃまぜ、おきざり、むちゃぶりで切り開く地域医療—」

宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座：吉村 学 先生

## 第2回南予地区糖尿病重症化予防を考える会（2016年11月25日、西予市）

「JMAP方式による“糖尿病腎症重症化予防プログラムの実践遂行に向けて—急速進行性糖尿病腎症を中心に—」

千葉県循環器病センター 臨床研修アドバイザー：平山 愛山先生

## 講座関連の研究費

### 【研究費】

#### 代表

財団法人地域社会振興財団

山間地域における生活習慣病に関する研究（2014年4月～現在）

川本龍一、大塚伸之、二宮大輔、熊木天児

平成27-29年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究C）

地域志向性を評価する尺度の検証と活用に関する調査研究

川本龍一、二宮大輔、熊木天児

平成26-28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究C）

門脈圧亢進症による膵血流動態異常が膵内分泌障害および膵外分泌障害に及ぼす影響

熊木天児

#### 協力

高齢者高血圧コホート研究（2004年10月～2018年12月）

川本龍一

Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective Study（2008年6月～現在）

川本龍一

EWTOPIA 75 試験（2010年4月～2018年12月）

川本龍一

## そ の 他

### 【教育活動】

地域医療学講座西予市地域サテライトセンター（西予市立野村病院）での実績

- 初期研修医（地域医療）2016年度 20名
- 後期研修医 2016年度（地域医療・総合医後期研修コース）1名

### 【授賞】

- 愛媛大学医学部医学科 Best Teacher 賞（熊木）

### 【委員会活動】

#### 学内

- 卒後臨床研修管理委員会（川本）：2010年度から
- 地域医療支援センター組織運営委員会（川本）：2011年度から
- 医学専攻教務委員会（川本）：2011年度から
- 地域医療推進委員会（川本）：2012年度から
- 大学院入試作問委員会（川本）：2015年度から

#### 学外

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員会（川本）：1999年度から
- 日本老年医学会代議員会（川本）：1999年度から
- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員会（川本）：2005年度から
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会（川本）：2005年度から
- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2007年度から
- 日本内科学会四国支部評議員会（川本）：2009年度から
- 西予市立野村病院運営委員会（川本）：2009年度から
- 松山赤十字病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度から
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員会（川本）：2011年度から
- 愛媛県地域医療支援センター運営委員会医師確保支援部会（川本）：2014年度から

幅広い領域の疾病を診断する総合診療科を新設

病気を心身から全人的に診療する総合診療医を養成します

総合診療科教授 川本龍一

3月より当院で総合診療科の外来診療を開始いたしました。これは来年度から始まる新しい専門医制度に「総合診療科」が新設されることを受け、総合診療実践と総合診療医育成を目的としたものです。

総合診療科では、病名がわからない等、何科に行けばいいのかわからない、あるいは何科に紹介すればいいのかわからないという患者さんを、外来で問診や身体所見を手掛かりとしながら病気の診断を行います。症状が一向に改善しない、症候がはっきりしない等の患者さんに対しては、適切な診断や必要に応じた継続的な医療を実施していきます。また、各科の専門医や他職種と連携しながら、多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供することも役割のひとつです。

このように総合診療医は、病気を心身から全人的に診療する「広さと多様性」を必要とします。これは、地域医療を担う「地域を診る医師」にも繋がります。

現在、地域医療の現場では指導医や教育時間の不足が問題となっています。当院の総合診療科は、県内の医療機関とも連携して愛媛県の総合診療医養成の核となり、愛媛県全体の医療水準の向上に貢献していきたいと考えています。



### PROFILE

かわもとりゅういち◎1985年自治医科大学卒業、医学博士。県立中央病院などを経て1993年から西予市立野村病院に勤務、1998年から同病院副院長、2009年から愛媛大学医学部地域医療学講座教授。専門は、総合診療科、一般内科。趣味は、ジョギング、映画鑑賞。好きな言葉は「上をみて生きる、下をみて暮らせ」。

## 編集後記

愛媛大学に地域医療学講座が設置されたのは平成 21 年です。ちょうどその年に地域枠奨学制度による医学生が入学。その第 1 期生も既に地域医療を实践すべく、県内の様々な施設で研鑽を積んでおります。地域枠奨学制度を利用して入学している医学生の多くが学生時代には総合診療やプライマリ・ケアに関心を持っており、地域に密着した病院で働くことを望んでいると思われます。しかし、初期研修医の間に考えが変わるものもいます。国民、県民の期待に応えるためにも、どの分野に進んだとしても地域医療に対するマインドを持ち続けてもらえるよう、当講座の果たす役割も大きくなっているのが現状であります。一方ではキャリアアップを心配しているのも現状です。各種専門医制度の変革期にあたり、当講座としても柔軟な対応で臨みたいと思ひます。

将来の医療、特に県内の地域医療を担う若者たちの育成のため、今後も当講座としての役割を果たして行く所存です。つきまして、皆様におかれましても未来の地域医療発展のためにも、学生実習および研修医育成に引き続きご協力および温かいご支援を賜りたい次第です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

末筆とはなりますが、皆様方のご健康と今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

編集担当 熊 木 天 児